

イラストレーター、絵ことば作家

たかいたかこさん



プロフィール

兵庫県尼崎市生まれ。短大卒業後、製薬会社に就職。結婚後、88年第1子、92年第2子を出産。育児不安などから産後うつに。96年から吹田市立女性センター（現男女共同参画センター）の広報誌スタッフ。同時期、子育て情報誌の公募キャラクターに応募して採用され、イラストレーターとしてもデビュー。絵ことばの創作活動は99年から。2000年には初の個展を開催。03年絵ことば集「ココロに種まき」を出版し、今年6月には第2集を出版した。各種講演会や絵ことば教室の講師としても活動中。



2006年6月30日白浜町で開催の「ココロに種まきワークショップ」の様子

「絵ことば」を通して、しんどい人の 支え手として共に歩みたい

「世の中、頑張ることが推奨されてきました。でも私はできなかった。だから言いたいです。今しんどくてできないのなら、そのことで自分を責めなくてもいいと」。こう話すのは、イラストレーターで、絵ことば作家でもある、たかいたかこさんである。

イラストレーターとしては、大阪市の人権絵本原作コンクール受賞作品『見とってな!けんた!』の絵や、「虐待防止啓発パネル」のほか、ファミリーサポートセンター事業のチラシ、阪神・淡路大震災10年の義援金付きハガキイラスト「たまわりちゃん」制作など多方面で活躍。

また絵ことば作家としては、03年に「比べなくっていいんだよ」「ゆっくりゆっくり」など、墨で書いた「ことば」に、こどものイラストを添えた絵ことば集『ココロに種まき』（ウインかもがわ）を出版。今年6月には第2集『もう一回ココロに種まき』（西日本出版社）を発行した。一方、講師としての依頼も多く、大阪市立子育ていろいろ相談センター等での絵ことば講座「ココロに種ま

きワークショップ」や大阪府立ドーンセンターでの「己（こ）育てサークル・ココロに種まき」などひっぱりだこ。00年から年1回開催している個展も先月、7回目を成功させている。

「産後うつ」との付き合い

たかいたかさんの「絵ことば」は、墨で書いた『ことば』と、粉末にしたパステルカラーで色付けしたイラストが特徴。そのイラストに結びつく絵は、「幼稚園の頃、絵画教室に通っていた」記憶があり、書は、「中学で書道教室、高校では選択授業で学んだ」のを基礎としている。

人生が大きく変わるのは、子どもを出産して以降だ。育児不安からマタニティブルーに陥り、長引いて産後うつ病に。「眠れない、食べられない、話せない」つらい日々が続く。そうした日常の中で、やがて「自分自身の嫌いな面、未熟な面が分かるようになり、それをなおすのではなく、それも含めて自分だと受け入れられるようになった」ことで、「なおさなあかん、変えなあか

んという、しんどさが軽減された」という。その結果「うつから抜け出せていませんが、しんどいながらも、そんな自分と付き合えるようになっていくのです」。

より添う支え手

子育てが一段落した94年ごろから、投薬を受けながらも吹田市立女性センター（現男女共同参画センター）で絵画を。また書も自宅近くの書道教室で再開した。「絵ことば」創作のきっかけは、育児本や子育て情報誌の制作スタッフ時代、取材を通じて多くの子育て中の母親に接したことだ。「母親の中には、しんどさをかかえている人がたくさんいる。そうした人たちに、頑張らんでええんよと寄り添って、支え手になりたい」。こうした思いの集積が「絵ことば」なのである。

多忙な日常だが、今後も「産後うつの実態を訴えていく」活動は続く。その過程で、たかいたかさんの蒔く種は、「しんどい人」のために芽をふき続けることだろう。

（文・脇本勤 / 表紙写真 高島悠介）